

議員の視点

わがまち再点検

12/2 NN18
■ 80 □

「1つのごとに集中する」といろいろ働いたくなる」。記者から転身した好奇心旺盛な「一年生議員」。業界紙の記者として都市開発、商業、医療など幅広い分野にかかわり、情報を吸収。十五年間の知識や経験の蓄積をもとに、多方面の角度から、市政にメスを入れ、市民の住みよいまちづくりに向け奔走する。

東住吉区・辻 義隆さん

にあたる、大阪市交通局職員七十人の厚遇問題を指摘。実働労働時間が四、五時間にもかかわらず、一人当たりの年収は一千万を超えるという非効率な実態を浮き彫りにした。

「これは水山の一角だろう。今後もし必要ない事業などを徹底的に精査し、追及する必要がある。事業の民間委託化などコスト意識を改革してもらわない」と市に注文をつける。

不必要事業を徹底精査



住民の要望実現に奔走する辻さん

区や市政にあたる上での平日夜間診療を求める声た行動源となるのが、住民から寄せられる生活相談。多を要望し、昨年十二月、区いときには月に百件を超え、内の中野休日急病診療所での相談の中で、もっとも強いたのが、小児救急時の休日急病診療に加えて、平日

夜間診療の拡充に働きつけた。住民からは「そばに医師がいれば安心できる」と喜びの声が寄せられる。

つじ・よしたか=1961年8月21日生まれ、44歳
公明 1期 (2003年初当選)
文教経済委員
座右の銘=「一期一会」
趣味=映画鑑賞、音楽鑑賞、ブログ
住所=東住吉区東田辺1丁目(事務所)
連絡先=電話06(6624)8875(事務所)

まちづくりに参画を

「人付き合いがさくはらんで庶民的」と評する東住吉区。住みよいまちづくりを目指して、「安心・安全」をキーワードに、住宅問題や大和川はんらん時の緊急対応などを見据える。住宅問題では、欠陥住宅を防ぐ抑止力として、市に基礎工事の段階での中間検査の実施の制度化を提案してきた一方、住民を中心としたまちづくりの必要性を課題に挙げる。

東住吉区は市内でも高齢化率が高く、独居老人死亡時の一戸建て家屋の跡地利用をめぐる高層マンション建設問題が生じやすい状況。近隣住民から日照権の問題などで相談も寄せられてきた。建設問題が浮上する前に、住民間でまちづくりの協定を結び、高さの規制をかけられるようにするなど「まちづくりにには住民と行政の意識の向上が不可欠。一人の百歩より、百人の一歩」と多くの区民が「わがまち」の意識を持ち、まちづくりに参画することを訴える。

また、大和川がはんらんし区南部が浸水する可能性を危惧(きん)。スパー堤防建設といった抜本的な治水対策を考える一方で、「避難警報が町中に聞こえるシステム確立が必要」とする。

今後まちづくり、福祉、教育などさまざまな分野で、鋭い切り口から、市民の目線に立った施策を提案、実現化に尽力していく。

(寺田英祥記者)